



環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第17号 平成25年5月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

「きれいな水循環フォーラム」が開催されました

去る平成25年1月25日、青森市の青森国際ホテルにおいて「きれいな水循環フォーラム」が開催され、農林漁業者や農林漁業関係団体、食品製造業者、消費者、NPO法人、行政などの関係者約150名が参加しました。本フォーラムは、「健全な水循環システムの再生・保全」に向けた「環境公共」などの取組を一層強化し、「きれいな水」を育みながら地域資源を活用した付加価値の高い商品づくりを推進することを目的に開催されました。

開会に当たり、三村知事はあいさつで「水は生命の源。私たち一人ひとりが、きれいな水を守っていくんだという強い気概を持ち、健全な水循環確保に向けた主体的な活動を推進することが大事」と力を込めました。

1 基調講演

基調講演では、NPO法人アサザ基金の飯島代表理事が、アサザプロジェクトの取組を紹介しました。平成7年に始まったこのプロジェクトは、霞ヶ浦の湖岸植生帯の復元、外来魚駆除などを環境教育と一体的に流域全体で展開されており、「市民型公共事業」と呼ばれています。現在までに延べ22万人を超える地域住民、学校、企業、行政などの多様な主体が参加し、生物多様性の保全を通じて健全な水循環を維持・保全していくための新たな社会システムの構築が進められています。

2 パネルディスカッション

NPO法人青森県環境パートナーシップセンターの鶴見代表理事をコーディネーター、基調講演を行った飯島氏をアドバイザーに迎え、3名のパネリストが参加したパネルディスカッションでは、「きれいな水づくりで地域を活性化」をテーマに討論が行われました。パネリストの小川原湖漁協の細井総括課長は

「湖の貴重な水資源は、漁業者だけではなく高瀬川流域全体で守っていく意識づくりが大切」と指摘しました。



意見を述べる船越理事長（右）

また、NPO法人あおもりふるさと再生機構の船越理事長は、住民の参加機運を高めるため「住民が地域の魅力を再認識し、住民の魂を入れた地域づくりにしないと意味がない」とし、成果を急がず息の長い取組が必要だと述べるなど活発な意見交換が行われ、盛況のうちにフォーラムは閉会しました。



あいさつする三村知事



飯島氏による基調講演



パネルディスカッションの様子

■「環境公共」事例紹介

地引地区(三戸郡南部町)～ 安心・安全で付加価値の高い農産物づくりを目指して ～

1 地区の概要

地引地区は、三戸郡南部町の北部に位置する沖積平野で、東西に1/500程度に緩傾斜した一級河川馬淵川左岸に拓けた水田地帯となっており、馬淵川を水源とする揚水機場で導水し、ほ場は小区画で地下水位も高い地域となっていました。

このため、平成23年度からほ場整備事業に着手しており、また、ほ場整備を契機として平成23年9月27日に「地引地区環境公共推進協議会」を設立し、環境公共に取り組んでいます。



ほ場整備事業「地引地区」

2 活動内容



平成23年度の田んぼアート

「地引地区環境公共推進協議会」では、福地クリーン米倶楽部や地引地区環境保全隊などの団体がそれぞれ独自に行っていた活動を「環境公共に資する活動」として連携して行うこととしており、特徴的な活動として、会長が率先して進めている減農薬・減化学肥料米の周知・販売を促進するため『田んぼアート』を開催しています。

田んぼアートでの田植え、稲刈は地区外の方々も参加しており、その様子は環境公共学会のブログにも掲載して紹介しています。

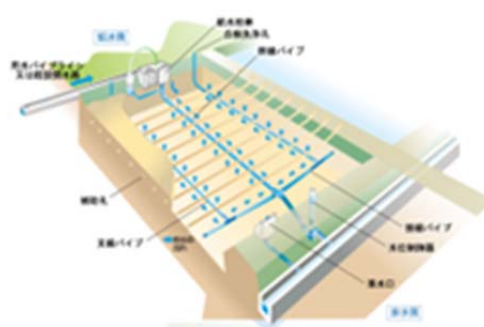
このほか、農地・水保全管理支払交付金を活用して、子供たちによる水路の「生き物調査」などの活動も行っています。



平成24年度の田んぼアート「稲刈」

3 今後の取組

今後、地引地区は地下かんがいシステム(FOEAS)を導入してニンニクなどの高収益作物の栽培を可能とするほ場を整備しながら、減農薬・減化学肥料栽培の促進による安心・安全で高付加価値の農産物づくりを目指して、田んぼアートなどの活動に取り組むこととしています。



地下かんがいシステム(FOEAS)